ISSN 2434-3072



1900s



1950s

北海道大学150年史 編集ニュース

第７号　2021年9月1日



1980s

目　次

〔巻頭コラム〕
北海道大学の沿革史編纂の歴史
井上高聡 …… 2
〔北大歴史ノート　第７話〕
有島武郎先生 …… 4
〔北大風景グラフⅦ〕
正門 …… 5
〔資料紹介〕収蔵庫さんぽ …… 6
〔活動紹介〕日誌 pick up …… 7
〔編集後記等〕 …… 8

〔巻頭コラム〕

北海道大学の沿革史編纂の歴史

井上 高聡
（大学文書館准教授）

北海道大学はこれまで4回にわたり大学の事業として沿革史編纂を行なってきました。創基150年の2026年を見据えて150年史編纂を開始するにあたり、これまでの沿革史編纂の歴史を顧みます。

(1) 最初の沿革史は学生の手で

1898年6月に札幌農学校の文芸活動団体である学芸会が学校紹介書『札幌農学校』を刊行します。執筆者は札幌農学校生の菅菊太郎、安東幾三郎、岩谷譲吉、草場栄喜らです。同書の第2章「札幌農学校の過去」が34ページにわたる沿革史の記述です。最初の沿革史は学生の手になるものでした。

3年後の1901年5月、札幌農学校は「創立二十五周年紀念式典」を開催しました。初めての学校を挙げた創立記念行事です。本科4年在学中の有島武郎作詩の校歌「永遠の幸」の披露、25周年記念遊戯会の開催、演武場（現札幌市時計台）のイルミネーションなどの催しを行ないました。翌1902年、学芸会はこうした記念行事の様子を加筆した『札幌農学校』増補第三版を刊行しました。

(2) 「創基」50年史

50周年の1926年3月には大学が編纂事業の主体となって『創基五十年記念 北海道帝国大学沿革史』を刊行しました。農学部教授中島九郎（1886－1959）が340ページにわたる執筆を担当しました。例言に「過去を記述するに当り専ら第一次的文献に遡ることを努む」とあります。「第一次的文献」は札幌農学校時代の公文書等を指します。これを機に、附属図書館がこれらの資料を整理、保存に当たりました。

また、50周年以降、北海道大学は「創立」ではなく「創基」の用語を使用しています。札幌農学校は、1907年に大学に昇格して東北帝国大学農科大学と改称し、さらに1918年には北海道帝国大学へと改組しました。大学昇格も北海道帝国大学の成立も、学校関係者にとっては宿願の達成でした。リスタート地点とも言うべきこの画期にも「開学」や「創立」の用語を用いました。そのため、札幌農学校開校という揺るがない基点を位置付ける用語として「創基」という独自の用語を用いたと考えられます。

(3) 難航した80年史

25周年、50周年と記念事業を行なった次は、75周年ではなく80周年です。1949年に新制大学が成立し、75周年の1951年は旧制から新制への切り替わりの過渡期に当たります。戦後の



創立二十五周年紀念式典
（1901年5月14日、沿革写真100-095）



中島九郎教授
（農学科1926年卒業記念写真帖より）

不安定な学内状況も続き、記念事業どころではない時期でした。80周年の1956年には記念式典を実施し、クラーク会館建設や80年史編纂の事業を計画しました。まだまだ社会も大学も不安定な中、激動の戦前・戦中・戦後の30年間の歴史を新たに書き起こす作業は難航し、394ページに及ぶ『北海道大学創基八十年史』の刊行は1965年3月に至りました。執筆は農学部教授高倉新一郎（1902－1990）が担当しました。

(4) 大学をあげた100年史編纂

1976年には100周年を迎え、大学は100年史編纂計画を立てました。北海道大学は、1877年を創立年に定める東京大学より1年早く100年という歴史的区切りを迎え、他の国立大学に先駆けて100年史編纂に取り組むこととなりました。

『写真集 北大百年』の編集を先行して進めた後、北海道大学百年史編集室を設置し、『北大百年史』全4巻計4,700ページに及ぶ編集、刊行に当たりました。大学全体の通史とテーマ論文を中心に構成した「通説」、学部・研究所等の部局ごとの歴史で構成した「部局史」、資料集「札幌農学校史料」(一)(二) です。「札幌農学校史料」には、50年史編纂を機に附属図書館が整理した資料群「札幌農学校簿書」を中心に採録しています。全学をあげて編集に取り組んだ『北大百年史』は、現在も質量共に高い評価を受けています。

(5) 125年史と大学アーカイヴズ

125周年（2001年）に際しては、100年史の編纂方法を踏襲して北海道大学125年史編集室を設置しました。『北大百二十五年史』編集は、『北大百年史』の内容を縮約して新たに25年分を加筆することを基本方針とし、通史・部局史からなる「通説編」と、テーマ論文・年表・統計からなる「論文・資料編」の全2巻計2,400ページを刊行しました。他にキャンパス・建物の変遷を中心に構成した『写真集 北大125年』、学生向け小冊子『北大の125年』を編集、刊行しました。小冊子は1、2年生向け講義「北海道大学の歴史」のテキストとなっています。

125年史編纂事業終了と前後し、編集に関わった教員が中心となって、恒常的に北海道大学に関する歴史的資料を収集、整理、保存、公開し、沿革史を調査、研究する大学アーカイヴズの設置を大学に提案しました。その結果、2005年5月に北海道大学大学文書館が開館しました。

2021年4月、大学文書館内に北海道大学150年史編集室を設置しました。過去の沿革史編纂事業の成果、そして編纂に際して収集・活用した資料は、大学文書館が引き継いでいます。これまでの沿革史編纂の経験を活かしながら、150年史編纂事業を進めます。



高倉新一郎教授
（1940年撮影、百年史編纂写真2869）



創基百年の祝い提灯
祝賀前夜祭(1976年9月14日)で配布された

北大歴史ノート　第７話
有島武郎先生

有島武郎（1878－1923、作家）は、札幌農学校が大学昇格を果たした東北帝国大学農科大学に1907年12月から1917年3月まで在職し、「大学予科」で英語の講義を担当した。その姿を、1907年に入学した原田三夫の回想からうかがう。

*

有島先生が赴任すると、英語の授業も、[有島]先生…に代った……それから通算二年間私は先生の講義を聞いたが、その中で、カーライルの博物館を訪れた話、詩の講義をするときに英詩の作りかたの規則を教わったこと…などを、切れ切れに思いだす。…二年になってからであったか、有島先生はホイットマンの詩や、ユーゴーのレ・ミゼラブルの一節を、こんにゃく版で印刷して生徒に渡して講義をした。

有島による講義は、テキストとした洋書を翻訳する形式で進められた。「英文の和訳をのべるときには、一言ごとにフン、フンとうなずくので、私［原田］も思わず熱が入った」という。

有島の日記には、「青年に対して授業する時のみは我は我が力の大部分を暴露し得るなり」（「観想録」第12巻、1908年1月21日の条。以下、有島の日記は同巻から引用）と、講義に注力するさまが綴られている。特に詩人のW.ホイットマン(W.Whitman、1819－1892)を扱うことについては、「予科の学生にホイットマンの真価を紹介するつもりだ。日本の教室で彼が紹介されるのは、恐らくこれが初めてだろう。学生達に『開拓者よ！おお、開拓者よ！』(“Pioneers! O Pioneers!”）を紹介しよう」（1908年3月11日の条）と意気込みをみせている。

英語の他には、倫理の講話も受け持った。「倫理を聞くは倫理学を聞くと其意義全然相異れる」ことであり、「倫理とは講者の経験（読書、境遇、修養より得たる）の活説」であった（1908年1月25日の条)。講話では、H.J.イプセン（1828－1906）とL.N.トルストイ（1828－1910）についての文学論の他、宗教論、恋愛論をとりあげた。新しい思想や自由を説いた講話は「非常な人気を博し、すべての科から集まった学生で、経済学講堂（当時は大講堂がなかった）満員の盛況で、席がないので立っているものも多かった。熱のこもった先生の講演に聴衆も熱心で、せき一つするものもなかった」という。

*

北大黒百合会は、藍野［祐之］と私［原田］が早くから有島先生を中心にして、洋画の会をつくろうとしたのが発端である。…藍野と私は…有島先生に、中心になってもらいたいと申し出た。先生は非常に喜んで、中心にはなれないが、ぜひ加入させてもらって、絵を楽しみ、できるだけ会のために尽力もしたいといった。

有島は絵画を好み、自らも描いた。「絵が画きたくて仕方ない。スケッチ・ブックを取り出して、時の経つのも忘れて耽った。実際に、僕は紫色の他の色に対する不思議な効果に深い関心を持っている」（1908年6月1日の条）という。

1908年5月、予科生徒の原田三夫、藍野祐之、小熊捍らが有島を中心に創立したのが、「黒百合会」である。会の名称は、恵迪寮の集会室における話し合いにより選ばれた、小熊の案であった。「有島先生は『土香会』を提唱したのであったが、落選したのを口惜しがり、思い切れなくて『土香会のほうが、いいのだがなー』といった」。

有島は生徒達と絵を描き、展覧会では、自身の作品を出品した他、参考品として私蔵のP.セザンヌ（1839－1906）やV.W.ファン・ゴッホ（1853－1890）ら印象派の複製版画を紹介し、岸田劉生（1891－1929）の作品を展示した。

農科大学長であった佐藤昌介の在職25年記念には、有島の仲介により、弟の有島生馬（1882－1974、洋画家）の筆による肖像画（1912年作、佐藤カツミ氏寄贈資料）が制作された。

（出典）原田三夫『思い出の七十年』誠文堂新光社、1966年
『有島武郎全集』第11巻、筑摩書房、1982年

（廣瀬）

北大風景グラフⅦ
正門

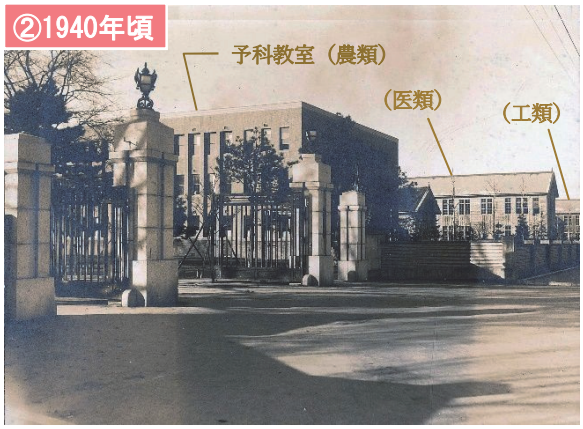


①1918年頃



（沿革写真125-068）

②1940年頃



（予科工類1941年修了記念写真帖より）

③1989年



（事務局庶務部庶務課撮影）

1903年、札幌農学校は北1条から農場内の北8条にキャンパスを移転した。新校舎に続く正門には、西五丁目通に面した北8条の農場入口があてられ、門柱は1904年10月に竣工した。

写真①は、1918年頃に撮影された正門周辺の風景である。門柱には赤レンガと札幌硬石が用いられ、木製の柵を備えていた。門標には「北海道帝国大学」と墨書きされている。正門から入ると、右手（北側）には予科及実科教室（1908年8月新築）が、左手（南側）には学生生徒・教官の親睦団体である「文武会」の事務所（1913年新築）が建っていた。同事務所の位置には、1924年に学生生徒控所が新たに建てられた。「学生ホール」とも呼ばれ、歓送迎会の会場などとして学生たちに親しまれた。

1936年には、陸軍特別大演習（1936年9月～10月）に際して農学部に大本営及び行在所が置かれることとなり、正門の改装が決定した。大学内の施設を担当する本部営繕課の職員から設計案を募集し、同年9月、鉄筋コンクリート造花崗岩仕上げの新たな正門が完成した。門標は高岡熊雄総長が揮毫し、砲金製に鋳造したものが取り付けられた。赤レンガ造の旧門は南門として移設された。

1940年ごろに撮影された写真②には、正門と予科教室群が写っている。正門直近の教室棟は1935年から1937年にかけて鉄筋コンクリート3階建に改築された。1947年からは法文学部（1950年文学部、1953年法学部・経済学部に独立）が使用し、1966年からは事務局が使用している。

戦後、正門には木製の門標が掛けられていた。現在の金属製の門標にかけ替えられたのは1975年度頃で、北海道で活躍した書道家金丸蘇洞（1919－1980）の揮毫による。

写真③は1989年1月の正門周辺の風景で、中屋ビル（北8条西4丁目）から魚眼レンズで撮影された。学生生徒控所が位置したあたりには、学術交流会館が1985年3月に建てられた。2010年6月には、正門横にあった守衛室の跡地に北大交流プラザ「エルムの森」が開設した。正門の南側は建て替えが続いたが、正門は南門（旧正門）と共に往時の姿をとどめている。（佐々木）

〔資料紹介〕 収蔵庫さんぽ

動物染色体研究施設の沿革資料

2021年3月26日、理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センターより、旧理学部附属動物染色体研究施設の沿革資料を受け入れました。資料には右の写真をはじめ、額装された染色体図（1910～1930年代）、施設内外で1950～1970年代に撮影された写真、木原均博士（1893－1986、植物遺伝学者）揮毫の色紙等があります。

1969年設立の動物染色体研究施設は、動物学者の小熊捍博士（1885－1971）以来、理学部動物学科で積み重ねられてきた染色体研究を基礎としています。初代施設長の牧野佐二郎博士（1906－1989）は、染色体の観察法「水処理押しつぶし法」を開発したほか、マウスやラットなど実験用小動物の系統研究を行いました。

同施設は、2001年4月に先端科学技術共同研究センター内の研究室への改組等を経て、2008年11月にゲノムダイナミクス研究センターの動物染色体共同利用部門となりました。

同センターからは、2017年5月12日にも、染色体研究関連の論文抜刷群「牧野文庫」と文庫の目録カード、小熊博士の肖像画、施設日誌、芳名録等をお寄せいただいています。

（佐々木）



ラットを腕に乗せる牧野博士（1959年、飼育室にて）

北学寮の沿革資料

「北学寮」は、かつて存在した学寮の一つで、学部学生向けの寮です。北大新潟県人会より「新潟寮」の建物（北14条西2丁目、1933年新築）の寄附を受け、1949年に開寮しました。定員は78名（1959年以降）で、1983年に閉寮しました。

北学寮以外にも、札幌キャンパスの内外には教養部学生向けの「恵迪寮」、学部学生向けの「楡影寮」「桑園学寮」「月寒学寮」「進修学寮」、大学院学生向けの「有島寮」、「女子寮」がありました。函館キャンパスには、水産学部学生向けの「北晨寮」（1935年開寮）や「啓徳寮」（1952年開寮）がありました。啓徳寮は1975年に閉寮し、1983年には新たな学生寮（現在の恵迪寮）を開寮するため、女子寮と北晨寮を除く学寮が閉寮しました。北学寮の跡地には、翌1984年に女子寮（現在の「霜星寮」）が新たに建てられました。

2021年6月11日、国吉昌晴氏（教育学部1966年卒業）より、クラスやサークル等の雑誌17点とともに、北学寮生が編んだ雑誌『北学』第3号（1965年3月）、第4号（1966年3月）を受贈しました。

一方、『北学』第9号（1971年2月）及び第10号（1972年2月）の複製物（林修嗣氏ご寄贈）、北学寮の閉寮記念誌、新潟寮の日誌や写真アルバムも大学文書館では所蔵しています。これらの資料は、閲覧室にてご覧いただけます。

（佐々木）



『北学』第3号、第4号

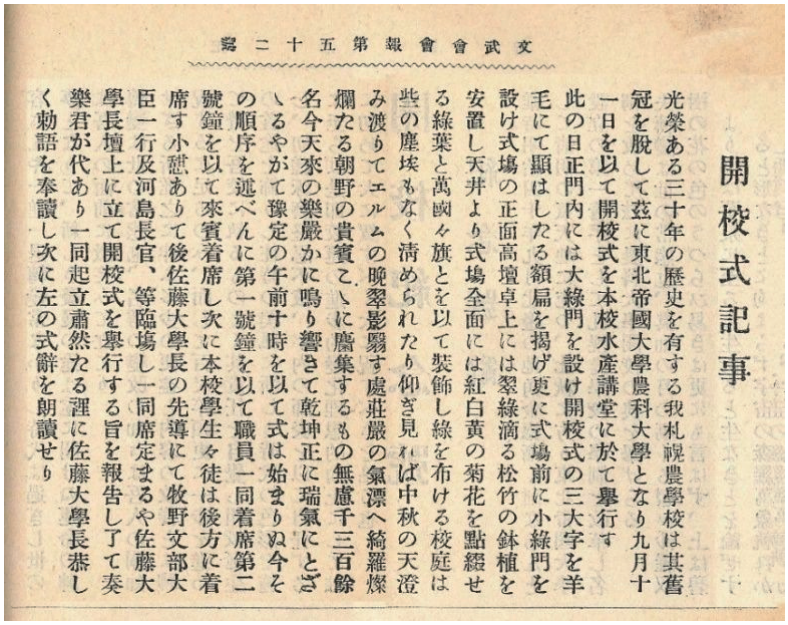
〔活動紹介〕 日誌 pick up

北海道大学150年史資料編の編纂開始

2021年4月1日、北海道大学150年史編集準備室を「北海道大学150年史編集室」に改称し、150年史の編纂作業を開始しました。

『北大百年史』（1980～1982年刊行）では、「通説」と「部局史」のほか、札幌農学校（1876年8月～1907年8月）に焦点をあて、札幌農学校の公文書群（札幌農学校簿書）や北海道庁所蔵の開拓使文書（現在は北海道立文書館所蔵）等に基づき、資料集「札幌農学校史料」全2巻が編纂されました。

150年史では、東北帝国大学農科大学の設置（1907年9月）から、北海道帝国大学の設置（1918年4月）を経て、新制北海道大学の設置（1949年5月）に至るまでの旧制大学期を対象とした「資料編」を編纂する予定です。現在、農科大学・農学部の教授会議事録、評議会の議事録、旧本部（庶務課教務係・文書係、学生課、会計課等）の作成した公文書群「帝国大学期簿書」、例規・内規を綴った法規関連の公文書類、『文武会会報』や『大学一覧』等の刊行物から、収録する記事を選定しています。



文武會會報第五十二號

開校式記事

光榮ある三十年の歴史を有する我札幌農學校は其舊冠を脱して茲に東北帝國大學農科大學となり九月十一日を以て開校式を本校水産講堂に於て擧行す此の日正門内には大綠門を設け開校式の三大字を羊毛にて顯はしたる額扁を掲げ更に式場前に小綠門を設け式場の正面高壇卓上には翠綠滴る松竹の鉢植を安置し天井より式場全面には紅白黄の菊花を點綴せる綠葉と萬國々旗とを以て裝飾し綠を布ける校庭は些の塵埃もなく清められたり仰ぎ見れば中秋の天澄み渡りてエルムの晩翠影翳す處莊嚴の氣漂へ綺羅燦爛たる朝野の貴賓こゝに麕集するもの無慮千三百餘名今天來の樂嚴かに鳴り響きて乾坤正に瑞氣にとざいるやがて豫定の午前十時を以て式は始まりぬ今その順序を述べんに第一號鐘を以て職員一同着席第二號鐘を以て來賓着席し次に本校學生々徒は後方に着席す小憩ありて後佐藤大學長の先導にて牧野文部大臣一行及河島長官、等臨場し一同席定まるや佐藤大學長壇上に立て開校式を擧行する旨を報告し了て奏樂君が代あり一同起立肅然たる裡に佐藤大學長恭しく勅語を奉讀し次に左の式辭を朗讀せり

東北帝国大学農科大学の開校式記事

佐藤昌介農科大学長は、1907年9月11日挙行の開校式の式辞の中で、札幌農学校開校時や、経費削減の政策により存廃の危機に陥ったことなどを回想し、「今昔の感に堪へざるものあり」と述べている。

（『文武会会報』第52号、1907年12月刊行）



開校記念スタンプ（1907年9月11日）

文武会学芸部は、開校記念としてスタンプを製作した。馬蹄型の外枠に「東北帝国大学農科大学開校紀念」と刻まれている。式典当日から数日間、希望に応じて使用が認められ、恵迪寮の日誌「寄宿舎庶務記録」にも押捺がみられる。

（廣瀬）

編集室日誌

政府による北海道への新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発令（5月16日～6月20日）により、本学のBCPレベルが引き上げられました。大学文書館では、5月18日～7月12日、事前予約制の来館利用を休止とし、編集室も来室しての受付を休止しました。昨年度に引き続き、BCPレベルに応じて、室員はシフト制勤務のもとで業務を進めています。

今後の開館・開室状況は、BCPレベルに応じて変更となる見込みのため、随時HPでお伝えします。引き続き、電話・メール・郵便によるお問い合わせは受け付けます。

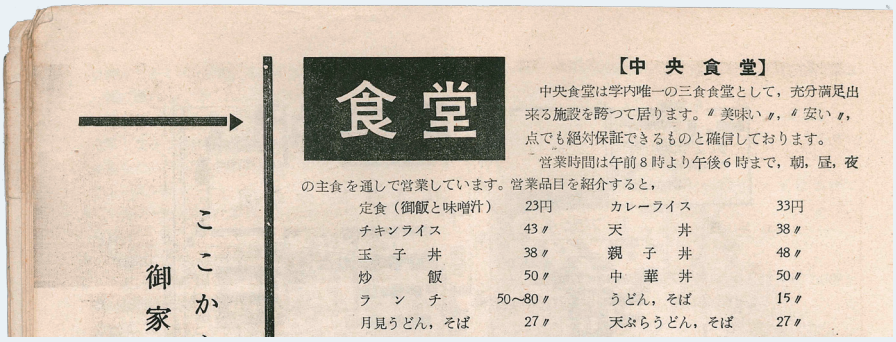
資料の収集・保存にご協力を

探しています　食堂にまつわる資料



北海道大学生活協同組合が1958年に発行した新入学生向けのガイドブックは、クラーク会館東隣にあった中央食堂や、農学部・医学部・工学部・理学部・恵迪寮内の食堂を紹介しています。中央食堂では、うどん・そばが15円、カレーライスが33円、ランチが50～80円で提供されていました。

大学生活のガイドブックのほか、食堂のチラシやビラ、食堂内でのスナップ写真など、大学内の食生活にまつわる資料や資料情報をお待ちしています。


食堂

【中　央　食　堂】

中央食堂は学内唯一の三食食堂として，充分満足出来る施設を誇つて居ります。〃美味い〃，〃安い〃，点でも絶対保証できるものと確信しております。

営業時間は午前８時より午後６時まで，朝，昼，夜の主食を通して営業しています。営業品目を紹介すると，

定食（御飯と味噌汁）	23円	カレーライス	33円
チキンライス	43〃	天　　井	38〃
玉　子　井	38〃	親　子　井	48〃
炒　　飯	50〃	中　華　井	50〃
ラ　ン　チ	50～80〃	うどん，そば	15〃
月見うどん，そば	27〃	天ぷらうどん，そば	27〃

ここから御家

「HOKUDAI COOP 加入と利用の栞」（1958年3月発行）　　間中俊夫氏寄贈資料より

編集後記

今回の表紙は野球です。開拓使仮学校（1872年開校、札幌農学校の前身校）では、1873年頃、アメリカ人教師A.G.ベーツ（Albert G. Bates）が生徒に野球を教えたと伝わります。1901年9月には札幌農学校に野球部が設立されました。

表紙図版――野球

・札幌農学校の野球部員たち（素木得一、高松正信ほか）
　1905年頃　（百年史編纂写真0156）
・理学部化学科の野球大会（旧野球場、現在の北図書館あたり）
　1952年6月　（姉帯正樹氏寄贈資料より）
・野球場Bの新設記念親善試合
　1985年8月　（有江幹男関係資料より）

北海道大学150年史編集ニュース　第7号
発行日　：2021年9月1日
編集・発行：北海道大学150年史編集室
〒060-0808
札幌市北区北8条西8丁目
北海道大学大学文書館内
開室日　：平日（月～金）9:30～16:30
（祝日、年末年始12/29～1/3を除く）
TEL/FAX　：011－706－2395
E-mail　：hu150@archives.hokudai.ac.jp
URL　：https://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/hu150.html

